

東山田 東小だより

横浜市立東山田小学校 学校だより 12月号 令和2年11月30日発行

リフレーミングで教育活動を進める



校長 宇都宮 桂

ひだまりの中、休み時間には校庭でドッジボールを行っている子ども達の姿が見られます。暖かい日も多く、うっすらと汗を浮かべ、手洗いをよく行ってから教室に戻っていきます。

11月から行われている遠足・社会科見学は、12月10日の4年生を残し、他学年は終了しました。

6年生は小田原・箱根へ出掛けました。社会科の学習が江戸時代に入ったタイミングなので、小田原城や関所等の見学が教室での勉強と重なり、学習が深まったようです。また、伝統工芸の寄木細工体験をしたり、家族やお世話になった人等へのお土産を購入したりし、宿泊はしなくても修学旅行と同様の活動を行いました。



5年生は愛川へと出掛けました。午前中は山へ入り、かながわトラストみどり財団のインストラクターの方に教えていただきながら、実際に山に入り、除間伐、枝打ちなどの体験活動を行いました。中津川を見学し、流れる水のはたらきについても学びました。午後は、愛川繊維会館レインボープラザで、藍染め体験を行い、自分だけのオリジナル作品を作りました。これまで林業体験や藍染め体験を行ったことはほとんどなく、今年だからできる校外学習となりました。



今年は宿泊ができなかったり、バスレクができなかったりしています。しかし、今年だからできること、今年しかできないことがあると考えます。小田原城や関所の見学、林業体験は社会科の学習、中津川の見学は理科、寄木細工や藍染め体験は図工等の学習に繋がる価値ある活動だと考えます。昨年度までと比較するのではなく、今年度だからできることを考え、今年度しかできないことを価値づけ、教育活動を進めていくことが大切だと考えます。リフレーミングの発想です。

リフレーミング (reframing) とは、「物事を見る枠組み (フレーム : frame) を見直す (re-frame)」という意味です。with CORONA の時代「あれもできない」「これもできない」と不安や課題に目が行きがちですが、物事を見る枠組みを積極的に見直して、気持ちや考え方を前向きにしていくようにするとよいと考えます。「このように考えればできる」「こんな風にやればできる」とリフレーミングするようにしています。「手は繋げない」「肩も組めない」でも「心は繋げられる」と考え、教育活動を進めています。



今月24日の「創立20周年記念お祝いの会」もリフレーミングの考えで進めています。体育館に全児童が入ると密になる。校庭に全児童が集まることは可能だが、天気や寒さが心配。場所についてリフレーミングして、横浜国際プールだったらできる。という考えでスタートしました。多くの保護者の方の参観の申し込みをいただき、大変感謝いたします。子ども達の思い出に残る一日にしたいと考えております。



12月は、今年度2回目の個人面談があります。学校での様子をお伝えしたり、家庭での様子をお聞きしたりしてご家庭と学校で連携・協力しながら子ども達を育てていきたいと考えております。限られた時間となりますので、お話したい内容があれば予めまとめておいていただけますと助かります。また、1月から教育活動をより充実させるために1~3年生の授業時間を本来の45分間に戻します。それに伴い登校時間や方法を改訂します。詳細は、本日配布した「タイムテーブル」をお読みください。保護者や地域の皆様のご理解・ご協力をいただきながら、子ども達の健康に留意して学習活動を進めてまいります。今月もどうぞよろしくお願いいたします。

